

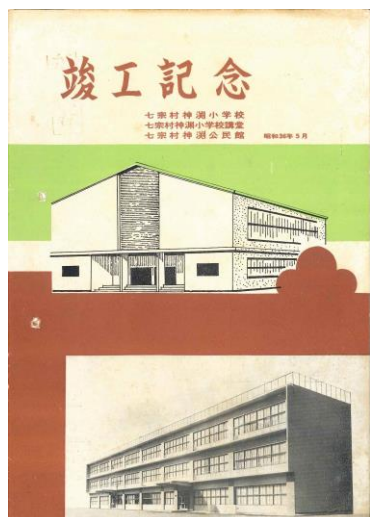
令和2年11月30日

かぶち



還暦を迎えた鉄筋校舎

教頭 河合 律子



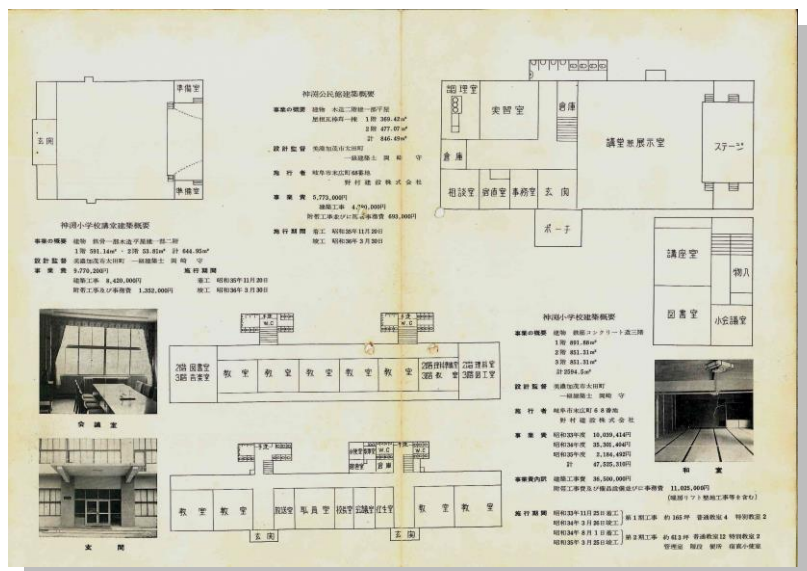
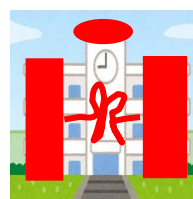
再来年度から改訂される社会科副読本「わたしたちのまち ひちそう」の編集作業に携わっている関係で、昔の写真を探していた時のことです。校内で保管されている資料の中に、「竣工記念」のリーフレットを見つけました。

このリーフレットは昭和36(1961)年5月に神淵小学校の講堂が完成した折に作られたものです。そこには、鉄筋校舎が昭和35(1960)年に第2期工事が完成したと記されていました。

当時としては先進的であった鉄筋校舎を視察しに次々に人々が訪れていたこと、この校舎を建てるにあたって保護者の方も力を貸してくださっていたこと、神淵財産区の木を伐りだして校舎建設費用を生み出されたことなど、たくさんのこと

を地域の方から教えていただきました。お話を聞かせていただきながら、この校舎が地域の方々に支えられ、愛され続けて今があること、ここを学び舎とした人達の思いがたくさんつまっていることをしみじみと感じました。

今年2020年は、第2期工事が完成して60年目となります。人間でいう「還暦」を迎えた鉄筋校舎に見守られつつ、タブレット型パソコンを用いた学習やプログラミング学習など、次世代を生きる子どもたちにとって必要な、新たな学びを進めていきます。



▼昭和31年ごろの神淵小中学校

